



NAT越しのセグメントの監視

NetSkateKoban®

KobanマネージャはKobanセンサに対して定期的に通信をしています。
その際、IPアドレスでKobanセンサを識別しています。そのため、以下のような設定が必要となります。

Kobanマネージャの設定

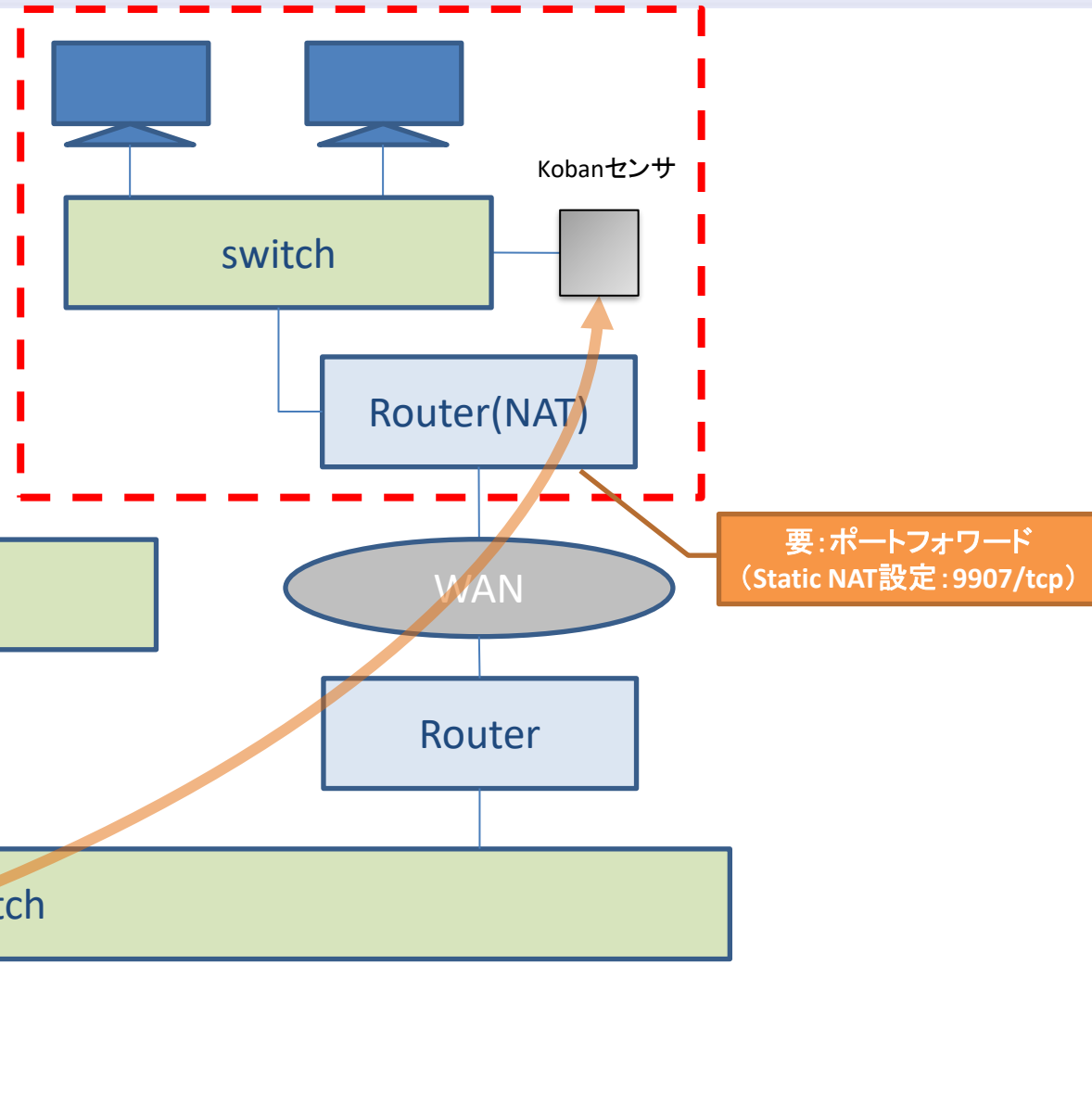
KobanマネージャにKobanセンサを登録する際、
IPアドレスの欄に「NATルータのWAN側アドレス」を設定します。

Kobanセンサの設定

センサ設定画面のセンサIPアドレスの欄に「NATルータのWAN側アドレス」を設定します。
※ ネットワーク設定画面のIPアドレスの欄は通常通りご使用ください。

NATルータの設定

NATを超えてKobanセンサにアクセスできるように、KobanマネージャからKobanセンサに対する
通信のポートフォワード等の設定が必要となります。
「NATルータのWAN側アドレス」で、LAN側に配置されているKobanセンサと通信(9907/tcp)できるように
設定をお願いいたします。





- 注意事項と制限事項

- 本構成の場合、一つのKobanセンサ毎に異なる「NATルータのWAN側アドレス」が必要となります。
- 一般的にはKobanマネージャからNAT配下の端末へのアクセスが原則不可となるので、以下のような機能が使用できなくなります。
 - NATの向こう側の端末のNetBIOS名の取得
 - 外部コマンド実行等での端末へのアクセス

- セキュリティ上の課題

- Kobanセンサ
 - ポートフォワード機能経由で、不特定のアクセスがないように適切なアクセス制御を実施するようお願いいたします。